

2019年9月2日

世界銀行  
ちばぎん証券株式会社  
株式会社千葉銀行

千葉銀行グループが世界銀行『サステナブル・ディベロップメント・ボンド』  
(円建てステップダウン型期限前償還条項付 日米2指数連動債)を販売  
～「TSUBASAアライアンス」連携施策～

ちばぎん証券株式会社(本店:千葉市、取締役社長 木村 理)は、「TSUBASAアライアンス」<sup>※1</sup>参加各行のグループ証券子会社<sup>※2</sup>と共同して、世界銀行(国際復興開発銀行)発行の『サステナブル・ディベロップメント・ボンド』(円建てステップダウン型期限前償還条項付日米2指数連動債)を販売します。

サステナブル・ディベロップメント・ボンドは、世界銀行が開発途上国の貧困削減および開発支援のために取組む、農業・食料安全保障、教育、エネルギー、金融、貿易・産業、保健、行政・インフラ・ガバナンス、水・公衆衛生、環境等の幅広い分野のプロジェクトやプログラムを支えるために国際資本市場で発行されます。世界銀行が投資家の皆さまからお預かりした資金は、開発途上国の持続的発展を目的とする融資案件に活用されます。世界銀行の支援は、今回ご紹介する開発途上国の農業における、市場へのアクセスや物流、廃棄物管理等の農業インフラの整備など、開発途上国で多く発生する食料の生産から流通までの過程での食品ロスの問題に取り組むプロジェクトも含まれます。

世界銀行は2030年までに「極度の貧困を撲滅」し、「繁栄の共有の促進」を持続可能な形で実現することを使命としており、この2つの目標は、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」とも連携しています。

千葉銀行グループは、サステナブル・ディベロップメント・ボンドの販売により、投資をつうじて社会に貢献したいという投資家の皆さまの願いと世界銀行が開発途上国で展開する様々なプロジェクトの橋渡し役を担い、インパクト投資を推進すると同時に「持続可能な開発目標(SDGs)」にも貢献して参ります。

なお、千葉銀行は、金融商品仲介業務(紹介型仲介)で同債券を取扱います。今回販売する債券の概要等は下記のとおりです。

※1 千葉銀行、第四銀行、中国銀行、伊予銀行、東邦銀行、北洋銀行、北越銀行、武蔵野銀行、滋賀銀行の9行が参加する地銀広域連携の枠組みです。

※2 ちばぎん証券、第四証券、中銀証券、四国アライアンス証券、とうほう証券、北洋証券の6社。

## 記

### 1. 債券情報

発行体： 世界銀行（国際復興開発銀行（IBRD））  
発行体格付： Aaa (Moody's) / AAA (S&P)  
種類： 円建てステップダウン型期限前償還条項付 日米2指数連動債  
発行日： 2019年9月26日  
償還期限： 2024年9月27日  
発行価格： 100%

### 2. 取扱期間(本債券の事前申込ができる期間)

2019年9月2日（月）～2019年9月13日（金）

### 3. 千葉銀行及びちばぎん証券について

千葉銀行は、預金残高12兆3,334億円および貸出金残高10兆1,368億円の地方銀行です。千葉県・東京都・埼玉県・茨城県など国内182店舗のほか、海外にも6拠点を有しています。（2019年3月31日現在）

ちばぎん証券は1883年（明治16年）に兜町最古の証券会社として創業し、千葉県内を中心に21店舗を展開しています。2011年に千葉銀行の完全子会社となり、ちばぎんグループの総合力を活かしてお客さまの多様な投資ニーズに対応しています。

### 4. 世界銀行について

世界銀行(正式名称：国際復興開発銀行、通称IBRD: International Bank for Reconstruction and Development)は、1944年に設立が合意された国際開発金融機関で、現在189の加盟国が出資し運営しています。加盟国の公平で持続可能な経済成長を目指し、地域及び世界規模の経済や環境問題に効果的に対処していくために、IBRDは中所得国に対し、貸出・保証、リスク管理サービスに加え、開発に関わる様々な分野の専門的な分析・助言サービスを提供しています。世界銀行の目標は、世界全体の極度の貧困を終結し、すべての人々が共に豊かに暮らせるよう繁栄を共有させることです。世界銀行は貸出資金を調達するために、70年以上にわたり国際資本市場で世銀債を発行しています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。 <https://treasury.worldbank.org/ja/about/unit/treasury/ibrd>

### 5. 「持続可能な開発目標(SDGs)」について

2015年、国連サミットにて国際社会の新たな目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。国連の全加盟国は本アジェンダをもとに、全ての人々に平等な機会を与

え、かつ次世代のために地球環境を保護することを目的とし、2030年までに貧困や飢餓・エネルギー・気候変動・平和的社会など、17の具体的目標の達成を目指します。日本政府も施策を展開しながら様々なステークホルダーと連携し、目標達成に向け積極的に取り組んでいます。

■ **世界銀行が取り組むプロジェクト事例**

<p><b>メキシコ：穀物貯蔵と情報へのアクセス改善プロジェクト</b></p>	
<p>メキシコでは、農業は労働人口の13%の雇用を生み出す重要な産業ですが、農産物を貯蔵するインフラに関しては、必要な設備や品質を維持する為の基準や規定が整っていません。さらに、従来の貯蔵施設の使用は大きな穀粒損失を招いており、食料安全保障上大きな問題となっています。本プロジェクトでは、小規模穀物生産者の穀物貯蔵施設や情報へのアクセスを改善し、食料安全保障の確保、市場の活用、競争力の強化を目指します。生産性の向上、収穫後の管理による穀物損失の削減、金融やマーケット情報へのアクセスの構築など生産者が市場に参入できるよう環境を整備するとともに、新しい貯蔵施設の建設や既存の穀物貯蔵施設の修繕などを実施し、穀物貯蔵インフラを改善します。</p>	 <p>©World Bank</p> <p><b>世界銀行融資額：</b> 1億2,000万米ドル 詳しくはこちらをご参照ください。(英語) <a href="http://projects.worldbank.org/P160570?lang=en">http://projects.worldbank.org/P160570?lang=en</a></p>
<p><b>アンゴラ：小規模農家を対象にした農業の改善と商業化プロジェクト</b></p>	
<p>アンゴラでは、就業人口の約44%が農業セクターで働いており、貧困層の半分以上は農村地域に暮らしています。農業セクターは、国家の発展と経済の多様化には不可欠ですが、同国の作物の収穫後の損失は非常に大きくなっており、生産性が大幅に向上しなければ、その潜在的な成長は期待できません。損失は野菜で20%以上にも及ぶと報告されています。本プロジェクトは、小規模農家の生産性や生産物の強化だけでなく、貧困削減、バランスの取れた成長の促進及び農業の改革によって、農村部の貧困層の生活水準の向上を目的としています。具体的には、農業関連機関の運営能力向上と農業の生産から販売までの一連の過程（バリューチェーン）における課題に対処します。特に、梱包、保管、輸送、小規模な加工、仕分け、収穫後の管理を含む問題に対処し、バリューチェーンのパフォーマンスと効率の向上を目指します。</p>	 <p>©World Bank</p> <p><b>世界銀行融資額：</b> 7,000万米ドル 詳しくはこちらをご参照ください。(英語) <a href="http://projects.worldbank.org/P154447?lang=en">http://projects.worldbank.org/P154447?lang=en</a></p>

\*上記の食品ロス・廃棄問題対策プロジェクトは、事例のご紹介のみを目的としており、今回の世界銀行債券の資金の活用を上記プロジェクト又はその分野に限定するものではありません。そのため、投資家が個々のプロジェクトのリスクを負うことはありません。

\*本プレスリリースは、世界銀行債券の購入の勧誘もしくは販売を目的とするものではありません。世界銀行債券の販売は、販売を担当する金融機関より交付される販売説明書等に基づき行われます。世界銀行債券の購入の勧誘は、単独または複数の国の法律に準拠して行われており、関係する全ての法律が遵

**ちばぎん証券**  
CHIBAGIN SECURITIES



守されない場合は、購入の勧誘もしくは販売を行うことはできません。

<本件に関するお問い合わせ先>

○商品に関すること

ちばぎん証券 法人部 吉井 電話:03-3660-4631

○TSUBASAアライアンスに関すること

千葉銀行 経営企画部 渡来 電話:043-245-1111 (内線 7965)

○世界銀行に関すること

世界銀行 財務局 柳 電話:03-3597-6650